

「地球温暖化詐欺」という「詐欺」を整理する

1. はじめに

「地球温暖化詐欺」というイギリスチャンネル4の字幕スーパー付きの動画が、YouTube や Gogle の動画サイトでアップされている。本物は昨年(2007年)3月にイギリスと放映されたものだ。先進的な方は、もう古い話題だとも言う。私は、今年6月に原発震災を考えるブログで紹介されたもので初めて知った。全体で1時間15分くらいの結構長い動画である。今この影響力が広がっていると感じ、を大変危惧しているものである。

それは、YouTube 動画などのインターネット上で、これを盾にいろんな書き込みが始まっていること、つまり「“人為的地球温暖化”などは嘘である、二酸化炭素を人類が排出することと異常気象は関係ない」という主張が広がっていることへの危機感であり、一方で、97年の京都の約束実行まで後3年ほど、今より十数%の削減が求められているにもかかわらず、未だに二酸化炭素排出がマイナスに転じようともしていない(この原油高騰で変化があるかもしれないが)ことへの苛立ちである。

2. その概略

初めて、見た時の衝撃は大きかった、日頃の不勉強をさらけ出すことにもなったからだ。そのアウトラインは

二酸化炭素排出量の増加による気候変動・地球温暖化は、「人為的地球温暖化説」として根拠が薄い主張であるとし、

二酸化炭素と気温は関係ない。

二酸化炭素は1940年頃急激に増加したが、気温は1940年に下がり始め、1975年まで低下が続いた。**CO2と気温は相反した関係だ。**

気温が上昇してから800年差で二酸化炭素が上昇する。CO2が気温変化を起こすことはありえず、**CO2は気温変化の産物で気温変化の後に増える。**

それは「海が暖かくなるにつれCO2の放出量は増加し、冷たくなるにつれて吸収量が増加。海がとて大きく深いから暖かくなったり冷たくなったりするのに数百年かかる」からだ。

二酸化炭素は比較的マイナー温室効果ガス、**水蒸気が最も重要な温室効果ガスだ。**

人間はCO2の主要な放出源ではない。**人間は6.5ギガトンしか放出していないが、動物やバクテリアは毎年150ギガトン、火山、枯れた植物(秋の落ち葉など)なども大きい、最大の発生源は海だ。**

太陽が気候変化の原因であり、CO2は無関係

まだまだ、あるが大きなポイントは以上かと思った。しかし、IPCCの報告書をもう一度整理して、読み直せば何のことはない。ただ、単純に「二酸化炭素が増えて、地球が温暖化している」と思っただけが、この衝撃と戸惑いの原因であることに、すぐに気が付いた。ただ、絶対的な価値観はないかもしれないが、これらの論点に対してIPCCの報告書はどのように言っているのかを整理してみた。でも、武田教授の時もそうであったが、こんなことでもなければIPCCの報告書を読もうという機会も持てなかつただろう。その意味では、この「地球温暖化詐欺」という「詐欺」に感謝しなければならない。

3. 概略的反論

前記の7点に絞っての考察ではあるが、**「CO₂は気候変動とは関係ない」**であり、**「CO₂は気候変動に関係あるかもしれないが人間の出すCO₂はたいしたことがない」**という分類になる。この映画には、氏名を名乗る21人の方が発言をするが、実はそれぞれ同じ考えでないことに留意すべきことに気が付いた。そのことを踏まえながらの概略的反論である。

一番のポイントは、「地球が温暖化している・気候変動が起こっているのは二酸化炭素が増加しているからだけではない」というIPCCの主張を忘れてはならない。

IPCCは、**気候変動の原因**について、私流に書き直せば、

「太陽からの放射熱」「太陽からの放射熱を反射する雲、大気中の微粒子(チリ)など」「地表に届いた熱を逃がさない温室効果ガス(水蒸気、二酸化炭素など)の保温効果」の3者の組み合わせとそれぞれの影響度合い(フィードバック)である。気候変動の要素が二酸化炭素だけであるはずがないのだ。

二酸化炭素と気温は関係ない

二酸化炭素がこの100年で急激に増え、温暖化が急速に進んだという相関関係は動かしがたい事実(データで明白)と温室効果ガス(水蒸気、二酸化炭素など)の温室効果をどうやって否定するのだろうか。映画は温室効果ガスの役割を否定していない。

二酸化炭素は1940年頃急激に増加したが気温は1940年に下がり始め、1975年まで低下が続いた。両者は相反した関係だ。

事実のグラフ(点の集合)からは**1940年~50年はやや下がった事実はあるが、その後は上がり基調である。**その10年間についてはIPCCは、工業化にともなうチリ(大気粒子)による影響と書いているがその要素はあるので、**二酸化炭素と気温が無関係の証明になっていない。**

気温が上昇してから800年差で二酸化炭素が上昇する。CO₂が気温変化を起こすことはありえず、CO₂は気温変化の産物で気温変化の後に増える。

事実、ずれがあるが、**二酸化炭素の量と気温との広い意味での相関関係は明確**にある。二酸化炭素だけが、要素でないのだから、相関関係があることが重要。

それは「海が暖かくなるにつれCO₂の放出量は増加し、冷たくなるにつれて吸収量が増加。海がとて大きく深いから暖かくなったり冷たくなったりするのに数百年かかる」からだ。

海の役割についても、同様なことを積極的にIPCCは書いている。

二酸化炭素は比較的マイナー温室効果ガス、水蒸気が最も重要な温室効果ガスだ。

水蒸気と比べれば、マイナーなことは確かであるが、水蒸気と二酸化炭素の組み合わせで実際に大きな影響が出ていると言える。

人間はCO₂の主要な放出源ではない。人間は6.5ギガトンしか放出してはいるが、動物やバクテリアは毎年150ギガトン、火山、枯れた植物(秋の落ち葉など)なども大きい、最大の発生源は海だ。

IPCCの報告書からは明確に読み取れないが、CO₂に放出量だけでなく、吸収量があり、そのプラスマイナスで、**結局、放出しているのか、吸収しているのかが重要だ。**収支で人間は**最大のCO₂放出減である。**

太陽が気候変化の原因であり、CO₂は無関係

太陽が気候変動の一番の主役であることは、間違いはないが、そのことと**CO₂軽視は無関係**である。